

具体的には、木育には次のような狙いがあります。

- ・ 森林と暮らしの中にある木とのつながりを感じる力が育つ
- ・ 木は自然が育んだ命であることに気付くことで、ものを大切にすることが育つ
- ・ 五感を使って木に向かい、表現することを通して、工夫する力が育つ
- ・ 木を使ってじっくりものを作ることに取り組むことで、根気が育ち、新たな課題へのやる気が育つ
- ・ 助け合いながら作りあげること、協力する心、相手を気遣う心が育つ

当町の木育・緑育

当町では、乳幼児から木育を通して心を育む取り組みを行っています。また、小・中学校では、木育の次の段階に当たる「緑育」に取り組んでいます。

赤ちゃんに積み木のプレゼント

木に親しみ、健やかな心が育まれるよう、また積み木を通じて身近な国産材として町産の木材の良さを知り使ってもらおうきつかけとなるよう、積み木のプレゼントを今年度から始めました。

ここでお渡しする積み木は、清水地域の間伐材を使った無塗装・天然無垢材のヒノキを使っています。



町内の保育園・保育所で実施する「キノピー教室」(写真は金屋第三保育所)

赤ちゃんに清水地域の木材を使った積み木をプレゼントする事業

聴きたい！現場の声

授業で子どもたちに学んでほしいこと

授業内では「川上から川下へ木が動いて、川下から川上へお金が動く(※)。その循環が大事」と伝えています。

またこの授業で何かに取り組むとき、グループを作ってもらって、僕自身は話し合いにはあえて入らないようにしています。それは、子どもたち同士でコミュニケーションをたくさんとってもらいたいからです。コミュニケーション能力はどこにいても必要になるものだと思うので。あとは物を作って、完成させる喜びも感じてほしいですね。

※商品の流通経路(サプライチェーン)を川の流りに例えたもの。

川上：山で木を伐る(森林所有者や林業経営者など木材供給者)、川中：製材、加工、流通をする(中間加工業者)、川下：製材された木材や木材製品を販売する(需要者および最終製品の提供者など)



清水木材加工所
宮本 久史 さん